

平成11年11月12日

日本分析化学会 高分子分析研究懇談会 会員各位殿

日本分析化学会 高分子分析研究懇談会
会長 森 定雄

第303 回例会開催案内

時下ますます御盛祥のこととお慶び申し上げます。第303 回の例会を下記のように開催いたします。是非、御出席下さいますようお願い申し上げます。

なお、12月の例会の恒例にならって、講演終了後、懇談会を開催いたしますので、こちらにも御出席下さいますよう、併せて御案内申し上げます。

記

1. 日時

12月10日(金) 13:30~19:30

2. 場所

簡易保険会館「ゆうぼうと」 JR 山手線五反田駅下車、徒歩5分 ☎ 03-3490-5111

3. 講演 13:30~17:00 6F 菖蒲(予定)

13:30~14:30

「昇温インタラクションクロマトグラフィーの紹介」

(出光石油化学) 若林 淳氏

溶解度の差を利用して分子量で分別する昇温インタラクションクロマトグラフィーが近年発表され、それに関連した文献が次々と紹介されるようになってきている。昇温インタラクションクロマトグラフィーによる分離法を説明し、併せ、実際に組み立てた装置およびその測定結果について紹介したい。

(講師からのメッセージ)

14:40~15:40

「ポリウレタンフォームのキャラクタリゼーションと物性」

(長崎大) 古川睦久氏

ポリウレタンは分子設計が容易な高分子であり、その用途は弾性繊維、塗料、接着剤、フォーム、エラストマーと広範囲に及ぶ。本講演では、先ず、ポリウレタンの基礎を簡単に眺め、次にこれから物性制御に最も重要な因子となる高次構造のキャラクタリゼーションとその制御について考える。最後に、ポリウレタンのこれからの我々の研究を含めて紹介し、皆様と一緒に考えたい。

(講師からのメッセージ)

15:50~16:50

「中性子反射率法による異種高分子界面の構造解析」

(名古屋大) 松下裕秀氏

中性子反射率法は、物質表面や物質間界面の状態を高い分解能で測定するのに適した方法である。特に高分子物質の場合には、特定の高分子を重水素でラベルすることにより、界面構造を精度良く測定できる。ここでは、ブロック共重合体を作る界面をホモポリマーのものと比較すると共に、この装置の現状と問題点についても言及する。

(講師からのメッセージ)

4. 懇談会 17:00~19:30 6F 紅梅(予定)

立食式の懇談会です。講師を囲んで、あるいは、会員相互で、自由な情報交換をしたいと思います。

参加される方は参加費2,000円を当日お支払い下さい。同一会社から2名以上参加される場合は、2人目以降の方は3,000円とさせていただきます。

5. 申込み

同封の申込み用紙に御記入の上、12月6日必着でお送り下さい。

以上